



第49号

ぽっかぽか

函南病院新設部



新たなステージへ

チャレンジ

新しい年を迎えたということに加えて久会としては50年という節目を超えて新たなステージに向けての最初の年でもありません。医療を取り巻く環境はますます厳しさを増しています。なかでも高知県は高齢化、人口減に加えて全国一病床数が多いというシンボルのような存在となっており、三重苦の中のサバイバルゲームに突入しています。経営が楽な医療機関などありません。そうした中で特性を發揮し、患者さんを選ばれる病院になるのは容易なことではありませんが、チャレンジのしがいのあることに違いありません。



何でもできる開業医

秘策はありません。これまで行ってきた「よくある病気にきちんと対応する」ことに徹底しレベルを維持・向上させ、かかりつけ医からも基幹病院からも信頼される「何でもできる開業医」としての立ち位置を究極まで目指し続けることしかないと考えます。そうしたベースに加えて、これまで築いてきた緩和ケアや創傷ケア、IVR（画像化治療）や画像診断といった当院の特色については更に内容の充実や院内外への周知を図ってゆく必要があります。

ステップアップを目指して

昨年は、看護部長・事務部長という病院のキーパーソンとなる2名が新しい顔に代わりしました。今、病院のステップアップを目指して様々な取り組みを行っています。一つ一つは決して目新しいことではないと思いますが、違いがあるとすれば職

■病院理念

1. 私たちは地域にとってよりよい医療・介護を目指し努力を続けます。
2. 患者様に信頼される技術と暖かいホスピタリティを提供できることが私たちの目標です。
3. 私たちは医療人として楽しく働ける職場作りを目指します。

■病院基本方針

1. 我々は病気（Common Disease）を安全・快適に治療することを目標としています。
2. 我々は当院の専門分野での高い医療レベルを維持することに努めます。
3. 我々は地域の他の医療機関・施設との連携を大切にします。
4. 我々は個人の尊重を重んじ、人生の終末期に対して入院および在宅医療・介護を通じて取り組みます。

員主導で進められようとしていることかと思えます。この「ぽっかぽか」も今年度からは久病院と紙面の共通化が図られようとしています。ホームページも同じです。久会として今ある資源を結集、総動員して新たな一年、そして新たな半世紀のスタートしたいと思います。

2017年がいよいよ年となりますよう院内外の皆さんのご協力をお願い致します。

院長 久直史



新しい
顔

新事務部長、看護部長挨拶



新事務部長 久 昌博

昨年10月に事務部長に就任して3ヶ月が経ちました。

厚生支局の適時調査、日本医療機能評価機構の訪問審査、高知市保健所の立入検査を事務部長という立場で経験させて頂きましたが、自分は何も知らないという事を痛感しました。まずは凶南病院を知るとい所から始めなければいけません。その為には現場に顔を出す事が重要だと思います。職員と話をすることで少しでも気持ちを理解し、現状を変えていければと考えています。

頼りない事務部長ですが、皆さんの力を借りて職員、患者様とご家族にとってより良い病院作りをしていきたいと思っております。

よろしくお願い致します。



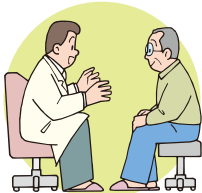
新看護部長 川村智恵

初めてぽっかぽかの原稿を書かせて頂いている看護部長の川村と申します。私はH9年に凶南病院に就職し、一般病棟で勤務させて頂いていました。H17年～看護主任、H20年～看護師長、H28年4月1日～看護部長になりました。看護部長としては駆け出しで力不足な点もたくさんありますが、目の前にある山積みの課題に少しずつでも取り組んでいかなければと思っています。中でも人材確保は最重要課題と考えており、これについては取り組みを行っている最中です。皆さんが楽しく・長く働ける職場環境を作るため、前向きに頑張っていきたいと思っています。どうぞよろしくお願い致します。

初めまして、ぽっかぽかの原稿を書かせて頂いている看護部長の川村と申します。私はH9年に凶南病院に就職し、一般病棟で勤務させて頂いていました。H17年～看護主任、H20年～看護師長、H28年4月1日～看護部長になりました。看護部長としては駆け出しで力不足な点もたくさんありますが、目の前にある山積みの課題に少しずつでも取り組んでいかなければと思っています。中でも人材確保は最重要課題と考えており、これについては取り組みを行っている最中です。皆さんが楽しく・長く働ける職場環境を作るため、前向きに頑張っていきたいと思っています。どうぞよろしくお願い致します。

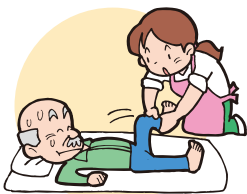
外来案内

外来診療はもとより、内視鏡・手術・IVR(画像化治療)・救急も行っています。地域連携の前方支援も担っています。



創傷ケアセンター外来

糖尿病性足潰瘍、血行障害による潰瘍、褥瘡など原因は様々ですが、6ヶ月以上治癒しない創傷、治療開始後1ヶ月たっても治癒しない等の慢性の難治性創傷を対象に治療を行います。



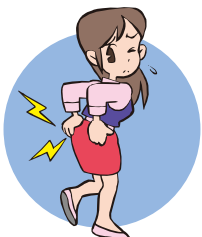
フットケア外来

糖尿病による足の合併症を(1)起こさない(2)早期に発見する(3)重症化させないということを目指し、医師・看護師・理学療法士が足の観察、お手入れ方法、歩行チェック、靴の履き方などをお話し、足浴、爪切り、角質除去、巻き爪矯正などを行っています。また、靴・装具が必要な際には義肢装具士とも連携をとっています。



緩和ケア外来

痛みやつらい症状等の緩和を行います。患者さんご家族の希望に合わせて通院の継続、さらに状態によっては訪問診療、訪問看護、ケアマネージャー等と連携をし、在宅医療もできます。緩和ケア病棟へのご案内も致します。



ペイン外来

痛みの治療を専門とした外来で、带状疱疹(ヘルペス)、腰部脊柱管狭窄症、頸椎症、坐骨神経痛などの痛みの治療を行っています。



経皮的椎体形成術 (PVP) 整形外科・放射線科

経皮的椎体形成術は、骨粗鬆症による圧迫骨折および悪性腫瘍の椎体転移や多発性骨髄腫などの椎体腫瘍による疼痛の緩和を目的として骨セメントを注入する治療で、侵襲の少ない即効性のある治療です。手技時間は約1時間で治療後は2時間臥床、翌朝より歩行可能としています。

病棟案内

一般病棟 (西館4階)



各専門科の検査や治療、手術や救急医療、慢性疾患、化学療法、ターミナル期と幅広く対応する混合病棟です。平均在院日数は21日以内となっており、医師・看護師、各専門職が連携して患者様へ入院から退院まで一貫した看護を提供しサポートを行っています。

地域包括ケア病床 (西館3階)



急性期を脱した患者様の適度な機能回復と十分な生活リハビリが必要な患者様が対象です。入院期間は60日以内で、他職種で関わり地域と連携を取り、在宅生活復帰を目標として医療と介護の架け橋を担っている病棟です。

障害者施設等一般病棟 (西館2階)



重度の障害をお持ちの方や神経難病の方が安心して長期入院治療を受ける事が出来る病棟です。長期に及ぶ呼吸管理の必要な患者様、その他障害を抱え長期入院を余儀なくされている患者様のニーズを察知しケアを行う事を心掛けています。

介護療養型病棟 (東館3・4階)



病状が安定し長期に渡る療養を必要とする要介護者の方が対象です。サービス計画に基づいて、療養上の管理、医学的管理の下での介護や機能回復訓練などの医療を行う施設で介護職員を手厚く配置しています。介護老人福祉施設や介護老人保健施設に比べて医療や介護度の高い患者様を対象としています。

緩和ケア病棟 (東館5階)



主に悪性腫瘍による身体的・精神的・社会的苦痛の緩和を必要とした患者様及び後天性免疫不全症候群の患者様を対象とします。緩和ケアを行うと共に外来や在宅への円滑な移行もサポートする病棟です。ベッド数12床で看護師配置は常時7:1をとっています。

当緩和ケア病棟では代替療法の一つであるアロマテラピーを積極的に取り入れ症状緩和やリラクゼーションの一端を担っています。



土佐の夢話想 (ゆめわそう) 2016へ参加して



平成28年10月1日(土)・2日(日)に、丸ノ内緑地公園・みどりの広場で行われた、土佐の夢話想2016。

高知県では、年間2500人の方ががんで命を落としているそうです。土佐の夢話想は一般社団法人高知がん

患者支援推進協議会の主催です。がんになっても安心して暮らせる地域の実現を目指し、①2人に1人ががんになる社会を生きていく子ども達へのがん教育・②がんで亡くなられた方々のご冥福を祈り、がん撲滅などの願いを込めて行う灯籠流し・③高知県のがん患者さんを支援する為の『土佐の夢話想がん基金』への寄付金を募るという3つの柱で活動するチャリティーイベントです。

当院もこの活動に協賛しており、私は毎年実行委員として、このイベントに参加しています。

参加対象者は、がん患者さんとそのご家族やご友人、医療従事者、高知県民どなたでも。

平成28年の10月1日はとても暑い一日でした。それでもたくさんの方々が、それぞれの想いで参加して下さいました。ゴスペルやダンス、和太鼓、三線等の各種ステージ、がん患者さんへの美容ケア、ウィッグ相談、医師によるがん教育、可愛い雑貨屋さんや美味しいお弁当屋さんの出店等々、賑やかな一日でした。

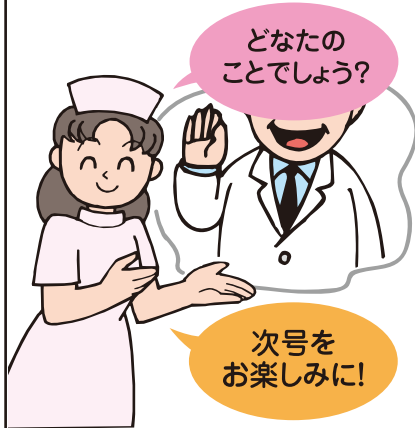
一日目の夜は、幻想的な竹灯りのモニュメントが高知城を見上げながら、美しい光の演出で彩りを添えました。二日目の夜は、ひとつひとつ丁寧に想いが込められたたくさんの灯籠が、鏡川の水面を静かに揺れながら、寄り添うように流れていく光景に心打たれました。

平成28年の参加人数は、延べ750人。この活動がもっともっと多くの方々に広がり、高知県のがん患者さんへの支援に繋がることを切に願います。

緩和ケア病棟 西村



白衣を脱いだら…?



ある医師の趣味をインタビューにいくと「春に試合があるからその時の雄姿をカッコ良く載せて欲しい」……と言われた。次号では函南病院の石器…いやヘンリー8世を紹介したい。

緩和ケア病棟 半田



ヘンリー8世

西森さんちのにゃんこ

Uchinoko Jiman

うちのまんこ

新聞を広げられると
転がりたくなるんだよなあ

ゴロン
ゴロン

キリッ

西森コタロウ
と申します

西森家の三男です
ちょー男前やけど、
頭にTバックをかぶってます

お姉ちゃん(次女)が
カッコよく
撮ってくれたがよ

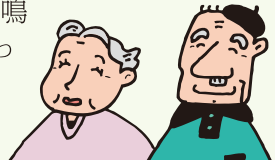




敬老会

平成28年9月14日、介護病棟では院内レクレーションで「敬老会」を行いました。参加して頂いた患者様とご家族様13名、職員9名、会場となった介護病棟の食堂が人でいっぱいになりながらカラオケ大会に用意しておいたおやつを食べました。最初は、なかなかマイクを向けても歌うのを恥ずかしがっていた方

たちも、見事な司会の職員の進行で次第に歌って頂けるようになり、みんなで囀子を鳴らしながら楽しい時間を過ごしました。帰りにはまだまだ歌い足りなかったのか鼻歌を歌いながら帰る患者様も見られ、職員も充実感に満たされるレクレーションになりました。



介護病棟 野町



どたばた お月見会

近年は、昼間にお月見会と題したお茶会を催しています。月なんてもちろん見えませんが、窓にうさぎと月の絵を貼り、ススキを飾ってお団子を食べる、雰囲気ってやつです。

さて、今年はスタッフも少ない中、久々にたこ焼きを焼いたのですが、私ときたら失敗ばかり。参加してくれた患者様、ご家族、みんなニコニコ。目の前には季節のフルーツやお団子やプリンが並んでいるのに、みんな私の焼いているたこ焼きをジッと待っている。なかなか熱くならないプレート。入れすぎのキャベツ。ひっくり返せずべちゃべちゃ。よく見ると鉄板が二枚重なっていた。焦る。視線が痛い。やり直し。今度はひっくり返せた！あ！たこ、入れ忘れた。えーい、埋め込め！！グイグイとタコを埋め込む作業の末、なんとかできあがり。

「ん～、おいしい！」

ほっ……。仕事中でもここまで焦って、汗が噴き出ることにはなかったのに。たこ焼きの練習がもっと必要です。

肝心の患者様たちは、思い思いに、たくさん召し上がっていました。こういったイベントに参加され、その季節を少しでも感じて楽しめることをうれしく思います。

緩和ケア病棟 岡本



《コスモス》

11月、スタッフが両手に抱えきれない程のコスモスを緩和ケア病棟のラウンジに持って来てくれました。それは鮮やかなピンクやシックな紅色だったりとその自然の美しさで季節を感じて頂きたく、病棟スタッフで各患者様の病室にも飾りました。コスモスのやわらかい花びらは、窓から差し込む日差しに透き通り優しく輝いていました。

緩和ケア病棟 半田



ぽっかぽか あい ひろば



緩和ケア病棟

クリスマス会



毎年恒例のクリスマス会、準備期間も含めて本当に楽しかったです。自分たちが主体となって料理を決めたりカードを作ったり。今年のオーダブルはどこにしようか、プレゼントは何にしようか、ラッピングは？予算は？と

ワイワイ話し合っ決めてることが学生時代のように面白かった！

当日、私は司会でしたがすっ飛ばして段取りを間違えたりしました。アドリブで切り抜けたのはだれも知りません。今回は、ハンドベル隊に高野先生や西村師長・佐竹主任も参加して下さり更に高野先生は、乾杯の音頭をとったり、サンタクロースになったり大忙しの高野先生に患者さんは大喜び。今回はゆっくり看護師も料理やおしゃべりや音楽を患者さんと一緒に楽しむ！ということが目標でした。どこのテーブルにも患者さんご家族、看護師たちの笑顔が溢れていて、胸が熱くなった日でした。それも、ボランティアやお手伝いに来て下さる他部署の皆様のおかげだと心から実感し、この場を借りて感謝申し上げます。いつもありがとうございます。来年も、素晴らしいクリスマス会が開けるよう思考錯誤していきたいと思ひます。

緩和ケア病棟 岡本



もちつき大会



毎年恒例のもちつき大会が開催されました。病院の職員やそのご家族も毎年心待ちにしているイベントです。院長先生はじめ、男性陣が一生懸命ぺったんぺったん。それを、女性陣は熱いうちにあんこを入れて丸めたり。子ども達もお餅が大好きです。お餅を杵でついてみたいと奮闘する子もいれば、お餅を一生懸命丸める子。また、そんな姿をよそに笑顔で口に白い粉をいっぱい付けて食べている子などとっても楽しいお餅つきになりました。

緩和ケア病棟 岳田

石野さんちのてんちむ



Uchinoko Jiman

うちの 子猫



狭いところが大好き
ちょっとおデブな
「てんちむ」です。



久会研究発表会

第22回目となった久会研究発表会が平成28年10月22日(土)に高知県立県民文化ホール「グリーンホール」にて開催されました。

独特の雰囲気にもまれた会場では、久病院と凶南病院の研究発表の代表者達の只ならぬ緊張が伝わってきました。そんな中、理事長の挨拶の後、特別講演の講師には「南海トラフ地震に備える・病院の災害対応」と題して、高知大学医学部寄付講座、災害・救急医療学講座特任教授の長野修先生をお迎えして、我々高知県民には明日起こるかもしれない、決して人事ではない講話に参加した全員が真剣に聞き入っていました。

その後、久病院と凶南病院の各部署が約一年がかりで一生懸命完成させた研究発表が行われました。発表時間10分と短い時間に、ぎゅっと凝縮された各部署の発表内容はどれもすばらしく、わかりやすくされたものでした。

プログラム

1. 13:30~13:35 理事長 挨拶

2. 13:35~15:05 特別講演

「南海トラフ地震に備える：病院の災害対応など」
高知大学医学部寄付講座

災害・救急医療学講座 特任教授 長野 修 先生

3. 15:10~16:25 部署別研究発表

(発表10分 質疑応答5分)

座長 凶南病院 放射線科 久 修明 先生

(1)「コスト削減に向けての病棟の取り組み」
～ユニチャームを使用して～

凶南病院 介護病棟 中谷 梢

(2)「外来での継続看護を考える」

久病院 外来 宮脇かわい

(3)「ソラフェニブ投与患者へのテレフォンフォローアップ」
～医師との連携による副作用の重篤化回避～

凶南病院 薬剤部 浅間美里

(4)「南海トラフ地震に備えて」～医事課編～

久病院 医事課 吉野真理子

(5)「緩和ケア病棟におけるアロマセラピーの現状」

凶南病院 緩和ケア病棟 佐竹枝美

研究発表が終わり、安堵の表情を浮かべていた発表者達の目には来年の久会研究発表会がすでに見据えられていました。

年末の忘年会では凶南病院薬剤部が最優秀賞に選ばれ賞金を手にしました。

介護病棟 野町



◆壁飾りシリーズ◆



西二階病棟の詰所前の壁には、患者様に季節を感じて頂きたく、スタッフ手作りの折り紙や写真で四季を表現しています。皆さんも是非、一歩足を止めご覧ください。

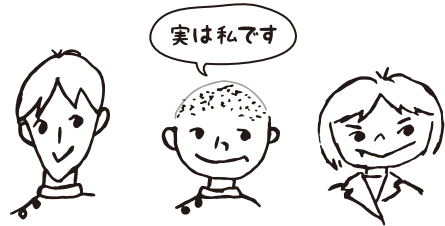


★ **きらり** ★

当院にはこんな素敵なスタッフがたくさんいます。✎

スタッフ紹介

リハビリテーション部
作業療法士 **永崎慎人さん**



平成22年に函南病院に就職し、作業療法士として勤務されて7年目になります。本人は謙虚な性格で自己PRは恥ずかしくないので、同僚の私が無理やり推薦させて頂きました。無遅刻・無欠席・無早退で、体調を崩したところは見ただともありません。日々の業務はもちろん、人がやりたがらないような部署の雑務等も嫌がることなく確実にこなしてくれるような勤勉家です。県の作業療法士会でも、実行委員として精力的に活動しており、さらに自身も研究発表等で自己研鑽しています。先日開催された第50回日本作業療法士学会でも研究成果を発表し、華々しく全国デビューを果たしました…という大袈裟な言い方ですが、日々の仕事量+αの頑張りを間近でみている私達からすると本当に尊敬です。一見、まじめで寡黙な印象ですが、キャラクターはひょうひょうとしていて面白い人なので、ぜひつついてみてください☆

この訓練は握力10回で…。



リハビリテーション部 **西岡**



PS :

殆ど西岡さんが書いてしまったのでさほど付け加える事も無いのですが、確かに通常業務以外の雑務を誰かに言われるまでも無く進んでやってくれますし、患者訓練も欠員が生じて一人当たりの負担が増しても文句一つ(偶にボソボソと)言うことなく、淡々と行なってくれている、非常に働き者であることに違いありません。ただ部署の上司として悩むことが…それはあまりにも働き者過ぎて、もっと有給を使って休んでください!それのみです><;

リハビリテーション部 **主任 山崎**





栄養部

イベント食の紹介



敬老会



H29 元旦 朝食



H29 元旦 夕食

寒い日が続きますね。年末年始の暴飲暴食の影響で胃腸が疲れ、体調を崩しやすい時期です。体を温めてくれる食べ物やレシピをご紹介します。普段の食事に取り入れて、免疫力を高め、風邪に負けない体づくりをして、寒い冬を乗りきりましょう。

・冬が旬の野菜(ごぼう、れんこん、大根、ほうれん草、ブロッコリーなど)

旬の食材はおいしさが増し、栄養価も高く、自然に体が欲する食材でもあります。豊富に含まれるビタミンCやEが毛細血管の機能を維持し、血管を広げ血行を促進します。

・色が濃いもの(小豆、黒豆、ココアなど)

小豆、黒豆には利尿作用があり、体の余分な水分を排出して体を温めてくれます。ココアには、テオプロミンという香り成分が含まれ、血行を促進します。

・薬味、香辛料(生姜、ねぎ、にんにく、唐辛子など)

辛味成分であるショウガオール、アリシン、カプサイシンが新陳代謝をアップさせ、血行、発汗を促進します。



鶏つくねのしょうが煮

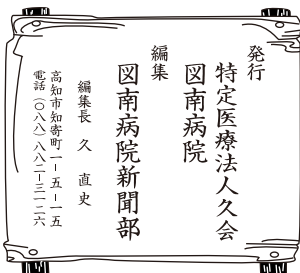
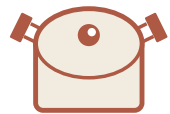
ふんわり鶏つくねと、トロリとしたネギを、しょうがを効かせた煮汁とからめていただく、とても美味しいレシピです☆

材 料 (4人分)

つくね	鶏ももミンチ	400g
	京ネギ	1/2本
	しょうが汁	小さじ2
A	京ネギ	2.5本
	だし汁	100cc
	酒	大さじ2
	しょうゆ	大さじ2
	みりん	大さじ1
	砂糖	大さじ1
	しょうが(すりおろす)	大さじ2

作り方

- つくね用のねぎ1/2本はみじん切りにする。
ねぎ2.5本は4~5cm長さの斜め切りにする。
- ボウルにつくねの材料を入れ、粘りが出るまでよく混ぜる。
- ②を12等分して俵形にし、片栗粉を全体に薄くまぶし付ける。
鍋に湯を沸かし、酒大さじ1、塩ひとつまみ、つくねを入れ強火で3~4分間ゆでてザルに上げ、汁けをきる。
※片栗粉を付ける事で、下ゆでの時に肉の旨みが逃げず、煮汁もからみやすくなる。
- 別の鍋にA、①の斜め切りにしたねぎ、③を入れて強火にかけ、3分間ふたをする、経過後ふたを取り、中火で2~3分間煮る。最後にごま油数滴を加えて混ぜ、出来上がり。



栄養部 嶋崎

